

コンクリートメンテナンス協会 技術広報委員会  
初回キックオフミーティング

1. 会長挨拶

コンクリートメンテナンス協会設立から10年。最初は少人数でスタートし、企画・運営、実行までしてきた。現在は協会規模も大きくなったことから、各地域の協会の意見を聞きながら全国で企画・運営を行いたい。また、全国で活躍する協会の利益につなげるためには各地で技術広報活動を行う必要があると考え、当委員会を発足することとした。本日は委員会活動の方針を決める機会なので最後まで活発な議論をお願いしたい。

2. 技術顧問（十河先生）挨拶

診断士を目指す十河塾を開いているので、診断士合格を目指す方に十河塾を紹介してほしい。

3. 技術広報委員会の内容の活動方針に関して（江良技術委員長・峯松広報委員長）

1) 設立目的

- ① 大学や研究機関、学協会との共同研究等の亜硝酸リチウムにかかる技術の開発、発展、信頼性向上に係る技術的活動を実施する。また、亜硝酸リチウムも含め、コンクリート構造物の適切な維持管理を行うという理念の基、検討をしていきたい。
- ② 10年以上続くフォーラムやブース出展を伴うイベント等で JCMA が推奨する各補修技術の周知、普及情報発信等に係る工法的活動を実施する。また、NETIS に類する新技術登録についても工法普及に一役買うと考える。
- ③ 上記活動を通じた協会員間の研鑽、情報共有として、本技術広報委員会がある。現在は事務局で技術資料を作成して、協会員の皆様へ周知する形を取っているが、まずは、技術広報委員の皆様へ周知し、各委員が地域の協会員間同士で技術の研鑽を深めてほしい。

2) 開催頻度・構成員の条件、任期に関して（江良技術委員長）

- ① 年3回（4, 7, 12月）を基本に、必要に応じて臨時招集する予定としている。
- ② 7月は JCMA 年次活動報告会に併せて実施する予定としている。

3) 名簿順に従い委員が自己紹介を行った。また、日産化学須藤様から亜硝酸リチウムの製造、安定供給に努める旨案内があった。

#### 4) 技術の向上に関する活動内容

##### ① 亜硝酸リチウム関連技術の開発

PC 部材への圧入や亜硝酸リチウムイオン簡易定量分析方法の確立を目指す。  
また、これまでの断面修復は鉄筋の背面まではつり、鉄筋をケレンしてポリマーセメントモルタルで修復する工法が主流だったが、鉄筋の中ほど迄はつり、鉄筋から 10mm まで亜硝酸リチウム混入量固形分 55kg/m<sup>3</sup> のポリマーセメントモルタルで修復し、それ以外は通常のポリマーセメントモルタルで修復する工法を断面修復工法の最適化検討として大学と共同で研究を実施している。

##### ② 亜硝酸リチウム関連技術の信頼性向上

コンクリートのコンディションに応じた含浸時間や含浸深さの定量化のため暴露実験等を全国で実施している。

また、圧入時の削孔ピッチ等の必要最小圧入料についても大学と共同で実施している。

特徴的な構造を有している地覆等を対象とした圧入仕様の確立を目指している。

##### ③ 大学や研究機関との共同研究

寒地土木研究所との共同研究や産業総合研究所への研究協力などを実施している。

##### ④ 技術資料の作成、更新

最適化した断面修復等を更新した「亜硝酸リチウム設計・施工指針の第2版」を活用してPR活動、技術力研鑽してほしい。

#### 5) 活動内容（広報）

##### ① コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム

開催場所の決定、講師の選定、ポスターチラシ等の準備、フォーラムのPR、準備、運営を行う。その後フォロー営業を実施して実際に仕事を生むことが最も重要と考える。

##### ② 技術展示会への出展

JCI の年次大会へのブース出展を中心として、各地で開催されるイベントへ積極的に出展する。どのようなコンテンツにするのか展示物を置くのか企画し、実際に技術展に立って来場者へ説明する。

##### ③ 新聞や専門誌への広告企画

日経コンストラクションを中心として各種建設情報新聞への広告掲載、記事提供を行う。

##### ④ 現場見学会の開催

発注者向け、コンサルタント向けへの現場見学会を企画、開催する。協会員の皆様の現場を活用して、見学会の企画を提案いただきたい。

#### 6) 協会の地位向上

- ・発注者、コンサルタントからの問合せ対応が多数寄せられている、また、協会員が施工する際に設計と違うところがある場合や現場状況に合わない際に、発注者に認めてもらうために協会見解書を作成する。また、協会員が設計折込をしていたが、他業者が受注し工法を変更する際の異議申し立てなどを行う。
- ・また、各協会活動への参画などへメンテナンス協会として参加することにより地位向上につながると考える。
- ・将来的には上記を協会員の皆様が各地で実施できるのが理想と考える。

7) これまでは本部が上記を運営していたが、今後は委員会として実施していきたい。

### 4. 2023年度の活動予定

#### 1) コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム

2023年度は10会場を予定している。今年度は協会事務局が主体になって運営をしてきたが、来年度より技術広報委員会を含めた体制で運営を行いたい。2022年度はミニフォーラムを開催したが、2023年度については現時点で予定していない。ただし、ぜひうちの地域でミニフォーラムを開催したい、という要望があれば、各地の協会員から企画・提案してほしい。提案内容について事務局と協議を行ったうえでミニフォーラム開催地を追加することも考えられる。その際、講師派遣等は事務局で行うが、会場選定や事前準備、PR、当日の運営などはその費用負担も含めてその地域の協会員で対応してほしい。

#### 2) ブース出展を伴うイベントへの参加計画

2023年度の活動予定については記載の通りで、これまでの出展の経験から費用対効果の高かったイベントについて出展を予定している。熊本のイベントは震災があった関係もあり規模が大きく反響も大きいため今年度も実施を予定している。ほかにも各地方でさまざまなイベントがある。その中でブース出展を行いたいイベントがあれば各地の協会員から企画・提案してほしい。その際、展示物等のコンテンツは事務局から提供するが、実施の準備、PR、技術説明、ブース運営などはその費用負担も含めてその地域の協会員で対応してほしい。

#### 3) JCMA 年次活動報告会

JCI コンクリートテクノプラザに併せて実施する。報告内容としては、社員総会で審議・可決された内容や予算関係について報告を行う。

#### 4) 委員会内での技術営業研修

メリット・デメリット等を説明できる営業トークに関する勉強会を実施する。今後は発注者、コンサルタント様への技術営業の機会が増えてくると推測される。リハビリ各広報の技術説明ができるようになることが最初のステップ、次のステ

ップとしてはコンサルタント様の設計に亜硝酸リチウム関連工法が最も優れていると選択されるためには比較検討が必要。亜硝酸リチウム関連工法と対比される一般的な工法との公平な視点での比較表の作成する必要がある。

#### 5) 地方版 NETIS

これまでの亜硝酸リチウム関連工法は国交省 NETIS へ登録をしてきた。今後は全国展開を視野に入れ、各県の地方版 NETIS について積極的に登録検討していただきたい。その中で、ぜひこの地域の新技術登録に取り組みたい、という要望があれば各地の協会員から企画・提案してほしい。その際、登録内容を技術情報等のコンテンツは事務局から提供するが、実施の資料作成、登録事務手続きなどはその費用負担も含めてその地域の協会員で対応してほしい。

#### 5. その他協議

・シリンダーのセットを小口の工事で注文するのが難しいので、中古品やリース体制などが整うと助かる。

⇒今後の課題として検討する。できれば仕事量を増やしてシリンダーセットを購入したほうがよい状況を作るよう尽力してほしい。

・リハビリ断面修復工法において、母材コンクリート中の塩化物イオン量は最大でどれくらいの場合まで想定しているのか？

⇒供試体実験により、塩化物イオン量 15kg/m<sup>3</sup> までは確認している。